

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 グループホーム ピュアグローブ)

事業所番号	0670400530		
法人名	特定非営利活動法人 米沢清友会		
事業所名	グループホーム ピュアグローブ		
所在地	米沢市通町2丁目5-62		
自己評価作成日	令和 1年11月 21日	開設年月日	平成13年 4月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ピュアグローブは、建物の前に広がる四季折々の風景を眺めながら、広々としたホールでご利用様がゆったり、のんびりとした生活を送れる様、職員は寄り添った支援をしております。また、四季の祭りや様々な行事も計画しており、ご利用様が楽しんで頂けるよう工夫しております。地域との交流にも力を入れており、夏祭りには地域の方々も参加されたり、地域の行事にも、ご利用者様と一緒に参加し、楽しいひとときを過ごされております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 元年 12月 16日	評価結果決定日	令和 2年 1月 6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

現在地に開設してから長い時間が過ぎ、地域からも認めてもらえる関係を築いています。地域で開かれるサロンで認知症についての講演を依頼され、話を聞いて良かったとの声も聞かれています。職員は利用者の喜怒哀楽を受け止めて寄り添った支援を心掛け、一日一回必ず話しかけ話を聞く様に努力しています。家族等とも広報誌や手紙で暮らしの様子を伝え、遠方に住む方には電話で本人と話をしてもらい、絆をつなぐ配慮もしています。基本理念の中の「敬愛の心と絆を大切に」を心の軸として、また「感謝・感激・長生きをモットーに笑顔があふれ歌声が響き渡るピュアグローブ」のホーム方針を掲げる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に住むそれぞれの家族には、そこで育んできた人生があります。敬愛の心と絆を大切に私たちは豊かな地域社会作りを目指しています」を基本理念とし、職員朝礼にて朗読することで、共有し、実践に繋げている。	基本理念の他にホーム方針を掲げ、敬愛の心と絆を大切に思い、利用者に感謝の心を持ち、喜怒哀楽を受け止め、常に利用者が相談しやすい雰囲気づくりを大切にして介護をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に近隣住民の方と挨拶を交わしたり、会話をしている。また、町内の回覧板を回して頂き、機関紙等も回して頂いている。地域のサロンにも参加したり、ホームの夏祭りにも参加して頂いたり、地区の行事にも参加し、交流を図っている。	地域において事業所の存在も大きくなり、サロンでは認知症についての講演を依頼され、話が聞けて良かったと好評を得ている。ホームの夏祭り(ビアガーデン)に近くの方々に参加をしてもらい、盛り上がりを見せるなど利用者にとっても楽しい交流が広がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議(きよともの会)で、ホームとして地域の方の相談に応じたり、支援方法を助言、指導している。また、地域のサロンに参加し、時間があれば、認知症についての発表を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム生活の現状報告や、身体拘束について、会議構成員から得られた意見を記録し、全職員に報告、情報を共有し、サービスの質の向上に活かしている。また、会議議事録を全家族へ郵送している。	町内会長をはじめ民生委員、市担当者の参加を得ているが、家族の参加がなかなか得られず苦慮している。日常の暮らしぶり等の報告のあと、時節にあった話題で参加者の意見等ももらい職員で情報を共有している。会議と同日に災害訓練を行い、参加者にその様子を見てもらい意見や感想を聞いて取り組みに反映している。	遠方の家族が多く会議への参加が難しい状況も見られるが、年一回でも参加出来るような体制づくりに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から担当の方とは連絡を取り合い、不明な点や対処法等、相談するなどし、連携を図りながらサービスの質の向上に努めている。	市担当者は運営推進会議に出席もあり事業所の取り組みについての理解は得ている。また、様々な情報を提供してもらい連携しながら質の向上につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	会議やユニット内研修で、身体拘束とその弊害に関して全職員が共通認識を図っており、拘束のないケアの実践に取り組んでいる。日中は鍵をかけず、ご利用者の行動を常に見守り、ホールに声がけし、レクリエーションを行っている。	身体拘束をしないケアを目指して職員の意識は高く、利用者の言動を否定しないで受け入れ、連携を取った見守りで安全に過ごしてもらっている。勉強会では実例をあげて話し合い、言葉遣いについては職員同士でチェックしている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は常に虐待の防止について全職員に認識付けを行い、研修会での場などで話し合いをもち、虐待が見過ごされる事のないよう努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開き、全職員が理解を深めるようにしている。対応が必要と思われるご利用者へは、ご家族などと話し合いながら、情報を共有し、支援に結びつけている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の内容や重要事項に関しては、不安や疑問点を伺いながら、管理者や計画作成担当者が十分に説明を行った上で、ご理解と納得を頂き同意を得ている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の定期的な来訪にて、ご利用者の相談にのって頂き、意見や気づきを頂いている。ご家族には、きよともの会に出席頂いた際や、ホーム来訪時に意見や要望をお聞きしている。頂いた意見や要望に関しては、周知ノートや会議の場において全職員の周知徹底を図り、改善策を話し合っている。	家族等の来訪時に要望などを伺い、また、介護相談員からも気づきや意見をもらい、会議時に職員で共有し改善策を検討しながら、より良い暮らしに繋がるよう反映させている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各種会議での職員からの意見や提案を、会議などで代表者に伝えている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議などで代表より職員へ意欲向上が育めるような訓示を頂いている。また、職員一人一人と面会を行い、向上心を持って働けるような対応をしている。			
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部及び外部研修は段階に応じて受けられるよう考慮し、ユニット内研修も行い、毎年研修に参加できるように配慮している。会議でも研修報告を行い、全職員がいつでも共有できるように閲覧している。	職員は本部からの指示で、段階に応じた外部研修を受け受講後は研修報告を行い皆で共有している。内部では身体拘束やストーマ取り扱い研修に力を入れ、現場で実践しながら共に育ち合えるよう取り組み、統一したケアを目指している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修などに参加し、他法人との交流、情報の交換を行い、サービスの向上につなげている。	他の法人とのグループワークの中で情報を得ている。市立病院が行う勉強会に参加して褥瘡の手当などを学びケアの向上につなげている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接でご本人の状況を把握し、ご本人の話を傾聴する事により、ご本人の思いや不安を理解し、職員にも周知することで、態度や姿勢にも配慮しながら信頼関係を作れる様努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から利用に至るまで、ご家族の話を傾聴する事により、ご家族の思いや不安、ニーズを理解し、相談しやすい関係作りを心掛けるべく、職員の態度や姿勢にも配慮しながら、信頼関係を作れる様努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談時、ご本人やご家族の思い、要望、状況を確認した上で、改善に向けて必要に応じ関係機関との調整を図り、早急に対応が行えるよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の様々な生活面でお互い協働しながら、利用者から教わったり、共に生活する仲間として支え合う関係を築けるよう、場面作りや声掛けをしている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へは、ご本人のホームでの生活の様子や状況、思いを伝える事で共に共感を得ながら、協力関係を築けるよう努めている。また、ご家族の協力の元、外出や外泊する機会を設けたり、ご家族の来訪時には、ゆったりと過ごして頂けるよう配慮している。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人やご家族より、馴染みの人や場所をお聞きし、会話するなどの支援を行っている。馴染みの人の来訪や、電話での対応。馴染みの場所へ外出する機会を持てるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員はご利用者同士の関係性について、情報を共有し把握するようにしている。ご利用者同士のコミュニケーションが図られるよう、職員が間に入り、様々な行事や活動に参加して頂きながら、ご利用者同士が関わり合い、支え合えるように支援している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所が決まった時点や退所後でも、ご利用者、ご家族の相談に応じ支援させて頂いている。また、移住先の施設や、利用される居宅サービス事業者へ、ご本人の情報を伝えている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者とコミュニケーションや話し相手となる等の関わりの中で、ご本人の思いや希望を把握するようにしている。把握が困難な場合には、ご本人の視点到立ち、日々の様子や行動、言動、表情などから思いを察するように努める。また、ご家族から情報を得る。	日々の関わりの中で話しやすい関係作りに努力し、お茶の時や家族来訪の時などに思いを聞いている。利用者の笑顔や“ありがとう”の言葉などから満足して貰っている事を感じ、会話の中で気付いた事柄は職員ノートで共有し、思いを活かせる暮らしが出来るような関わり方をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	来訪時や電話などで、ご本人やご家族関係者、友人、知人などから聞き取った情報を伝えてもらい、把握する事に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者一人一人の生活パターンやリズムを把握し、職員間で情報の共有をしている。ご利用者の暮らしの場面からできる事を見極め、支援している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者やご家族からの要望や意見を反映させるようにしている。日々のモニタリングや定期的な処遇検討会で、職員の気付きや意見を出し合い反映させている。介護計画は定期的に評価、見直しを行っており、職員にも周知させている。	利用者の今出来る事を続けるには何が必要なのかを第一に考えて、担当職員は利用者・家族等の意向を理解し、長期・短期目標の達成度を見ながら報告し、職員の気付きや意見を取り入れて、今の状態を悪化させずに維持出来るかを考えた計画を作っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の状況、日々の暮らしの様子やご本人の言葉、気付き、ヒヤリハット、受診内容等、日中夜間共に個別に記録し、職員は必ず確認する様にして情報の共有を図り、介護計画の見直しにも反映させるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周辺地域の商店や近隣所の方、地域の方の協力を得ている。地域の催しへの参加や、公共施設を利用する場合は、事前に連絡を行い、協力をお願いしている。その際は安全で迅速に行動できるよう計画を立てている。		
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用契約時にご本人やご家族が希望するかかりつけ医や、協力医療機関を確認し対応している。週1回の訪問看護も受けており、連携を図りながら往診や受診の支援を行っている。	定期受診は職員付き添いで行われているが地域外の病院や歯科には家族が同行している。またかかりつけ医の往診もあり、入居者全員が週一回の訪問看護を受け、皮膚疾患の手当など、特変時は指示してもらい早急な対応で安心している。薬は薬局が一括して届けてくれるシステムになっている。	
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護と、協力医療機関病院のドクター並びに看護師に、2週間から1か月に一度来訪して頂き、ご利用者の情報を伝えて相談し、助言を頂いている。		
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族の同意の下、ご利用者の情報を提供している。また、入院中も医療機関との情報交換や相談に努め、早期退院できるように支援している。		
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについての方針をもとに、話し合いを行い、ご利用者やご家族の意向を受け止め、方針を共有し、かかりつけ医からの助言をもらいながら状況や状態に応じ対応している。また、契約時にも看取りの説明をご家族に行い、同意をえている。	看取りの指針があり、契約時に説明をして家族からは同意を得ている。入居中の経過をみて異変があった場合は常に連絡を密にして寄り添った支援をしている。未だ看取り経験にはいたらないが職員は体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故防止委員会を設置し、予測される事故などの検討、事故防止に努めており、毎年応急手当や緊急対応時、救急法の研修を実施し、全職員が習得するようにしている。また、緊急時対応マニュアルがあり、全職員に周知徹底を図っている。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や業者の協力を得ながら、春と秋の年2回、夜間も想定した避難訓練を行っている。回覧で地域の方の呼びかけや、ご家族の方にも参加して頂いている。	年に一回は消防署参加のもと避難訓練を実施し、講評において指摘があった事は改善し、訓練には家族等・地区委員の方にも参加してもらっている。火災と地震のマニュアルを整備し、常にタオルやヘルメットを準備し、居室の点検は夜勤者が毎日行い防災意識を高めている。備蓄は本部で一括管理している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者が主体であることを全職員が理解しており、プライバシーに配慮しながら、ご利用者を尊重した支援。また、言葉遣い、態度、対応、記録の取り方など意識して努めている。	講師を招いてマナー研修を行い言葉遣いには気を付けて利用者のトイレ誘導時などは耳元で伝えるなど配慮し、尊厳を大事に支援している。広報紙への写真掲載には家族等からの要望を受け個人が特定されないようプライバシーに十分配慮した取り組みを行っている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者一人一人に合わせて声をかけ、暮らしの様々な場面でご利用者自身が決める機会を作っている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者一人一人のペースに合わせた支援を心掛けている。その時ご本人の状態や気持ちを把握しながら、思いや希望を尊重し、可能な限り柔軟に対応するようにしている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容時や入浴後、外出時など、常に身だしなみの支援を行っている。鏡を見て頂きながら、ご本人主体に身だしなみを整えてもらっている。理美容でもご本人の希望があれば対応してもらっている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝の会で今日の献立を伝え、野菜の皮むきや盛り付け等、出来る事で力を活かして頂きながら、ご利用者と共に共同で行っている。また、ご利用者と職員が同じテーブルで食事をし、会話をしながら食事を楽しんで頂いている。	各事業所の食材係が一月交替で献立を作成し、調理は各事業所で行い利用者は皮むきやもやし根取り、テーブル拭きなど出来ることを手伝い職員と一緒に食卓を囲んでいる。バスハイキングでの外食や希望食を取り入れ独自の楽しみを増やしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に食事や水分、おやつの摂取量を毎日記録している。献立も栄養バランスや苦手なもの等配慮し、一人一人の状態に応じ、食事形態を工夫している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、一人一人の口腔状態や力に応じて、洗面所への誘導や見守り、介助など行っている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日々の排泄記録や、職員間の申し送りでご利用者の排泄パターンを把握している。時間ごとでのさりげない声掛けや誘導を行い、またプライバシーにも配慮している。	お茶の前や食事の前後など定時の誘導で失敗のない排泄に繋げている。ほとんどの方が紙パンツを使用しているが中には布パンツの方もおり、夜間の排泄は一度起こしてトイレ誘導し安心して眠ることができている。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員はご利用者の食事や水分摂取量、活動面を記録し、未排便を把握するようにしている。その上で体を動かすレクリエーションを行ったり、水分の調整や、乳製品などを取り入れる等、ご利用者一人一人の便秘の予防を行っている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	午後3時頃より入浴しており、ご本人の体調や気分に合わせて声掛けを行い、一人一人ゆったりと入浴できるように支援している。檜風呂と機械浴の二つを設置しており、希望を伺いながら対応している。曜日や時間なども可能な限りご本人の希望に合わせている。	一日3名を目安に週2回入浴できるようにしている。温度・時間、浴室を暖めるなどし、転倒防止に気を付けて、皮膚状態の観察も見落とすことなく支援している。拒否のある場合は声がけに注意し、再度誘うなど工夫して入浴できるよう支援している。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活パターンや心身の状態に応じて日中の活動支援を行いながら、安心してゆっくりと休憩がとれる環境と、夜間安心して入眠ができるよう支援している。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局より一人一人の薬の目的や副作用などが記録されている概要を受け取り、職員が内容を理解できるようにしている。また、配薬の確認を行い、服薬時には見守りと飲み込みの確認を最後まで行っている。ご利用者の状態の変化に関しては、その都度主治医に連絡、相談し、指示を頂いている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしの中で、ご本人ができる事、望む事での役割の場面を作り、感謝の言葉を伝え、ご本人に自信を持って頂く。行事やレクリエーション、外出支援を行い、楽しみ事や気分転換が図れるようにしている。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者の希望や気分に応じて、外気浴や散歩、買い物やドライブ等、日常的に戸外へ出かけられるように支援している。また、ご利用者の希望も反映されながら、バスバイクの行事を計画、実行し、ご利用者に楽しんで頂いている。また、ご家族の方で外出して頂くなどの協力も得られている。	気分転換をかねて買い物や散歩、また天気の良い日は日光浴しながら花壇の水やりなど戸外の空気に触れている。事業所合同の秋祭りには家族にも参加してもらい一緒に出かけ楽しんでいる。冬期間でも多数の行事を計画し、雪灯籠まつりなど雪国ならではの催しで喜ばれている。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	受診やドライブの際、ご家族に相談しながら、ご本人の希望や力に応じて少額を所持してもらっている。店に立ち寄り、買い物をする機会を作り、自ら選んだ物を購入して頂いている。ご利用者によって支払いまでしてもらっているようにしている。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望に応じて対応している。その際は、プライバシーの侵害とにならないよう配慮しながら、支援している。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や照明に関しては日中、夜間と共に、ご利用者の活動に合わせ、職員が配慮している。また、ホールと台所の繋がった空間により、生活感のある音や匂いを感じて頂いている。季節ごとの貼り絵や手作りカレンダー、写真を飾り季節感を採り入れている。	台所とホールが一体となっており、調理の様子がわかり利用者も参加しやすい造りになっている。写真や利用者手作りの作品を飾り話題作りの一助になっている。テレビの前と窓際にソファ席が配置されて利用者がくつろげる居場所となっており、加湿器を備え乾燥に気を付けて感染症対策をしている。	
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはテーブル席以外にも、ソファなどを設置し、一人で過ごしたり、休まれたり、気の合うご利用者同士でくつろげるスペースを作っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご家族へは入所の際、馴染みの物や家具の持ち込みをご本人と相談しながら持って来て頂く様伝えられている。また、ご利用者の意向に沿い、居室に写真や色紙など飾れる事により、安心して心地よく過ごせる様配慮している。</p>	<p>居室はエアコンと洋服ダンス、ベッドが備え付けてあり、そのほか家から持ち込んだ衣装ケースや家具類などで安心して暮らせるよう支援している。掃除は職員も協力しながらできる方はモップかけなどを行い清潔にしている。</p>		
54		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ご利用者一人一人の「できること」や「わかること」を職員間で情報を共有し、話し合いを行い、安全面に配慮した生活環境の中で、ご利用者の自立支援に努めている。掃除など当番制で出来る限りの所をして頂いている。</p>	/	/	